

# 福津市でSDGsを体感しよう —人口増加自治体の課題—

長濱ゼミでは長崎県立大学地域創造学部の芳賀ゼミと合同で福岡県福津市を訪問しました。福津市は現在も人口増加が続き、「住みやすさランキング」でも取り上げられる活気ある自治体です。今回は「福津市でSDGsを体感しよう—人口増加自治体の課題—」というテーマで1泊2日の研修を行いました。



## I. キッカケラボの活動について II. 防風林の保全活動について

## III. 藍の家と津屋崎千軒の散策 IV. 津屋崎郷づくり



キッカケラボの活動について中村様のお話を聞いている様子

## I. キッカケラボの活動について

福津市未来共創センター(キッカケラボ)の中村様がグループワークを取り混ぜた講義を実施してくださいました。学生たちの緊張をうまく解いてくださり、和やかな雰囲気です。「横のつながりの作り方」「無理をしない関係づくり」など、共生・共創のための地域づくりの工夫について学ぶことができました。さらに、その後の研修のために「地域社会が持っているポテンシャル」を意識してほしいという貴重なアドバイスも頂戴しました。

## II. 防風林の保全活動について

続いて、ふくま郷づくりの廣渡様に実際に松林を歩きながら、福岡の松林の歴史と保全活動について説明していただきました。時々の社会情勢によって松林の利用方法に変化はあるものの、松林は地域社会の貴重な財産であることを優しくお話してくださいました。同時に、維持していくご苦労についてもお話をくださり、当たり前が存在しているように見える自然が、人の手によって維持されていることを、学生たちも理解してくれたようです。その後、短時間ではありますが、福岡海岸の清掃活動も行いました。



ふくま郷づくりの皆様が保全されている松林での集合写真



古閑会長より藍の家の特徴をお聞きしている様子

### III. 藍の家と津屋崎千軒の散策

2日目の午前中は、福津市津屋崎で活動を実施しました。まずは藍の家の古閑会長に、120年の歴史を誇る藍の家を中心とする地域活動についてお話をしていただきました。行政との関係、地域活性化の様々な活動の成功と失敗など、熱く語ってくださり、学生たちも前のめりの姿勢で聞いていたのが印象的でした。これまで実施していた地域のイベントの人气が高まりすぎて、地域のキャパシティを超えたために中止になったお話などは、近年のオーバーツーリズムの問題とも重なり、学生の関心も高かったように見えました。その後、街中をグループで散策して、地域の良さを学生たちに体感してもらいました。学生たちの質問や訪問に快く対応して下さった津屋崎の住民の皆様には、この場を借りてお礼を申し上げます。

### IV. 津屋崎郷づくり

最後は、津屋崎郷づくりの楠田会長に、自治会を中心とする街づくりの現状についてお話いただきました。「真の自治とは何だろうか？」という大きな問いから始まり、①資金の問題、②自治会加入者の減少・担い手の減少、③地域のためになるイベントを考える難しさなど、地域が抱える深刻に課題について説明して下さいました。福津市は人口増加自治体であるにもかかわらず、抱えている悩みの中には、過疎地域と同じ内容があることを知って、学生たちは地域が持続的に発展していくことの難しさを感じたように見えました。

そして、会議室をお借りして、研修で考えた「持続可能な地域に必要な条件とは何か。自分たちができることは何か」を議論しました。学生たちの意見を地域の皆様にも聞いてもらい、貴重なコメントをいただきました。普段は異なる学びを続けている二つの大学の学生たちが熱心に議論しており、地域の問題に真剣に向き合ってくれているように感じました。



津屋崎郷づくりの楠田会長に学生が質問している様子



研修の総括をグループで議論している様子



研修総括後の集合写真

今回、本当に多くの方のご協力の下、充実した研修ができました。学生のために快くご協力くださり、ありがとうございます。特に二日間、キッカケラボの鈴木様がずっと同行して助けていただきました。改めてお礼を申し上げます。

今後とも大学の内外で充実した学びが提供できるように努めたいと思っています。